科研費

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 5月29日現在

機関番号: 12601

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2015~2018

課題番号: 15K11878

研究課題名(和文)地域包括支援センター職員のバーンアウトの経時的軌跡に関する研究

研究課題名(英文)Trajectory of burnout among the staff of the community comprehensive support center

研究代表者

村山 洋史(MURAYAMA, HIROSHI)

東京大学・高齢社会総合研究機構・特任講師

研究者番号:00565137

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文):本研究の目的は、地域包括支援センター職員のバーンアウトの経時的軌跡を明らかにすることである。対象は、東京都杉並区の地域包括支援センター職員全員であり、研究期間終了までに、実対象者206名、観察データ577件の6年間のパネルデータを作成した。解析の結果、バーンアウトの3因子(「情緒的消耗感」「脱人格化」「個人的達成感の低下」)とも、地域包括支援センターでの勤務年数が長くなるに従い、一旦得点が上昇するものの、その後低下していく2次曲線を描いていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義 地域包括ケアシステム構築の一翼を担う地域包括支援センター職員のメンタルヘルスの保持増進は、地域保健上 極めて重要な課題である。効果的な対応策を考えるには、ある時点の状態だけなく、長期的にどのように変化し ていくかという特徴を知ることが重要にする。本研究は、日本において初めてのバーンアウトに関するパネルデ ータを構築した点に大きな意義がある。

研究成果の概要(英文): The purpose of this research was to identify the trajectory of burnout among the staff of the community comprehensive support center (CCSC) in Japan. I collected the data from the staff in Suginami ward, Tokyo (including 206 participants and 577 observations) for six years. I found that the burnout level (including three subscales; "emotional exhaustion," "depersonalization," and "low personal accomplishment") had changed with a quadratic curve over time as they have worked in the CCSC longer.

研究分野: 医歯薬学

キーワード: 地域包括支援センター バーンアウト 軌跡

1.研究開始当初の背景

高齢化が急速に進展する我が国では、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるような仕組みづくり、すなわち地域包括ケアシステム構築の重要性が謳われて久しい。平成24年の介護保険制度改正では、この地域包括ケアシステム推進が盛り込まれた。その中核を担う組織として期待されているのが地域包括支援センターである。地域包括支援センターは、保健師・看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士の3職種によって構成される組織である。地域における社会資源のネットワーク構築、相談からサービス調整までいわゆるワンストップサービスの提供、権利擁護、介護支援専門員支援機能など、対人業務から調整・支援業務まで期待される役割は多岐に亘る(長寿社会開発センター,2011)。一方、その業務範囲の広さや期待から、人材不足、高い離職率等の課題も報告されている(伊藤ら,2008)、それ故、地域包括支援センターが提供するサービスやケアの質の確保・向上、あるいは職員の定着化のためにも、地域包括支援センター職員のメンタルヘルスの保持増進は、地域保健上極めて重要である。

近年、ヒューマンサービス従事者の職務ストレスとして注目されているバーンアウトは、職員のメンタルヘルスの保持増進を検討する際の一つの指針となる。バーンアウトとは、心身の激しい消耗(情緒的消耗感) クライアントとの積極的な関わりの回避(脱人格化) 仕事への意欲や達成感の低下(個人的達成感の低下)に特徴付けられる症候群と定義され、ストレスの結果生じるストレス反応の一つとして位置付けられる。これまで、医療・保健・福祉分野のバーンアウトに関する研究は、看護職や介護・福祉職等を中心に蓄積されてきている(例: Takeda et al., 2005; 贄川ら, 2005) しかし、地域包括支援センター職員に着目した研究は非常に少ない。

望月(2012)は、バーンアウトの下位尺度のうち、情緒的消耗感にのみ焦点を当て、地域包括支援センターの業務量の多さの認識が情緒的消耗感の高さに関連していることを示した。また申請者は、業務に対する認識(やりがいの低さ、困難感の高さ)に加え、職務満足感の低さや上司からのサポートの少なさがバーンアウトの高さに関連していることを示した(村山,2011:研究業績 no.27)。しかし、これらは共に横断研究であるため、その関連の因果性については検討の余地があり、また、縦断的な変化も解明されていない。

2.研究の目的

本研究の目的は、地域包括支援センター職員のバーンアウトの経時的軌跡を明らかにすることである。

3.研究の方法

調查対象

東京都杉並区の地域包括支援センター(以下、センター)20 か所に所属する職員全数とした(ただし、非常勤職員、および事務職員除く)。

調査方法

2002~2007年において、各年の対象者に対して質問紙調査を実施した。対象者個々に ID を割り付け、その ID を質問紙に付すことによって、同一個人の回答を調査年をまたいで連結可能とした。ID の管理、質問紙の配布と回収は杉並区高齢者在宅支援課の職員が行い、研究者が個人の回答を特定できないようにした。

調査の手順は、 ID を付した質問紙を該当する対象者に配布、 回答後の個々の質問紙を無記名の封筒に厳封された状態で回収、 回収した封筒は研究者が開封し管理、であった。 6回の調査の延対象者数(観察データ数)は577、実対象者数は206、回収率は92~100%であった。

調査項目(バーンアウト)

久保らの日本語版 Maslach Burnout Inventory を用いた 14)。この尺度は、Maslach らの Maslach Burnout Inventory をもとに作成され、信頼性、妥当性が確認されている。 17 項目を「1=ない」から「5=いつもある」の 5 件法で尋ねるものであり、次の 3 つの下位概念で構成される:「情緒的消耗感(仕事を通じて、情緒的に力を出し尽くし、消耗してしまった状態)」、「脱人格化(サービスの受け手に対する無情で、非人間的な対応)」、「個人的達成感(ヒューマンサービスの職務に関わる有能感、達成感)」。

この中で、情緒的消耗感は、バーンアウトの主症状であると考えられている 15 ため、本研究では情緒的消耗感を取り扱うこととした。情緒的消耗感は 5 項目で構成され、5 項目の合計点を項目数で割って使用した。得点範囲は、 $1\sim 5$ 点であり、得点が高いほど、情緒的消耗感が高いことを示す。2012 年データにおける Cronbach's α は 0.81 であった。

倫理的配慮

本研究は、東京都健康長寿医療センター研究所研究倫理委員会の承認を得て行われた(2012

年)。対象者には、調査の趣旨、調査への協力は任意であること、匿名性を確保すること等を記した協力依頼文を調査票に添付し、調査票の返信をもって調査への同意とみなした。回答後の調査票は個別に無記名の封筒に入れ厳封してもらい、回答者個人の回答が、研究者にも杉並区高齢者支援課職員にも特定されないように配慮した。

4. 研究成果

女性が 75.2%、平均年齢は 41.9±11.0 歳、地域包括支援センターでの平均勤務年数は 3.2±2.8 年であった。

バーンアウトの 3 因子(「情緒的消耗感」「脱人格化」「個人的達成感の低下」)とも、地域包括支援センターでの勤務年数が長くなるに従い、一旦得点が上昇するものの、その後低下していく2次曲線を描いていた。

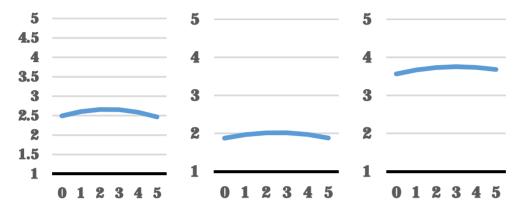


図 1 . バーンアウト得点の軌跡 (左:情緒的消耗感得点、中:脱人格化得点、右:個人的達成感の低下得点)

5.主な発表論文等 [雑誌論文](計15件)

- 1. <u>Murayama H</u>, Bennett JM, Shaw BA, Liang J, Krause N, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Does social support buffer the effect of financial strain on the trajectory of smoking in older Japanese? a 19-year longitudinal study. *Journal of Gerontology: Psychological Sciences & Social Sciences* 2015; 70(3): 367-376.
- 2. <u>Murayama H</u>, Nofuji Y, Matsuo E, Nishi M, Taniguchi Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Are neighborhood bonding and bridging social capital protective against depressive mood in old age? a multilevel analysis in Japan. *Social Science & Medicine* 2015; 124: 171-179.
- 3. <u>Murayama H</u>, Liang J, Bennett JM, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Trajectories of body mass index and their association with mortality among older Japanese: Do they differ from those of Western populations? *American Journal of Epidemiology* 2015; 182(7): 597-605.
- 4. <u>Murayama H</u>, Nishi M, Nofuji Y, Matsuo E, Taniguchi Y, Amano H, Yokoyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Longitudinal association between neighborhood cohesion and depressive mood in old age: A Japanese prospective study. *Health & Place* 2015; 34: 270-278.
- 5. <u>Murayama H</u>, Liang J, Bennett JM, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Socioeconomic status and the trajectory of body mass index among older Japanese: a nationwide cohort study of 1987–2006. *Journal of Gerontology: Psychological Sciences & Social Sciences* 2016; 71(2): 378-388.
- 6. <u>Murayama H</u>, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H. Albumin, hemoglobin, and the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese: a 13-year longitudinal study. *Journal of Prevention of Alzheimer's Disease* 2017; 4(2): 93-99.
- 7. <u>Murayama H</u>, Spencer MS, Sinco BR, Palmisano G, Kieffer EC. Does racial/ethnic identity influence the effectiveness of a community health worker intervention for African American and Latino adults with type 2 diabetes? *Health Education & Behavior* 2017; 44(3): 485-493.
- 8. <u>Murayama H</u>, Shaw BA. Heterogeneity in trajectories of body mass index and their associations with mortality in old age: a literature review. *Journal of Obesity & Metabolic Syndrome* 2017; 26(3): 181-187.

- 9. <u>Murayama H</u>, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Changes in health behaviors and the trajectory of body mass index among older Japanese: a 19-year longitudinal study. *Geriatrics & Gerontology International* 2017; 17(11): 2008-2016.
- 10. <u>Murayama H</u>, Fujiwara T, Tani Y, Amemiya A, Matsuyama Y, Nagamine Y, Kondo K. Longterm impact of childhood disadvantage on late-life functional decline among older Japanese: Results from the JAGES prospective cohort study. *Journal of Gerontology: Biological Sciences & Medical Sciences*. 2018: 73(7): 973-979.
- 11. <u>Murayama H</u>, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Miyamae F, Ura C, Edahiro A, Motokawa K, Awata S. Is community social capital associated with subjective symptoms of dementia among older people? A cross-sectional study in Japan. *Geriatrics & Gerontology International* 2018: 18(11): 1537-1542.
- 12. <u>Murayama H</u>, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Age and gender differences in the association between body mass index and all-cause mortality among older Japanese. *Ethnicity & Health*. (in press)
- 13. <u>Murayama H</u>, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Okamura T, Awata S. The differential effects of age on the association between childhood socioeconomic disadvantage and subjective symptoms of dementia among older Japanese people. *Journal of Epidemiology*. (in press)
- 14. <u>村山洋史</u>, 小宮山恵美, 平原佐斗司, 野中久美子, 飯島勝矢, 藤原佳典. 在宅医療推進のための多職種連携研修プログラム参加者におけるソーシャルキャピタル醸成効果: 都市部での検証. 日本公衆衛生雑誌. (in press)
- 15. <u>Murayama H</u>, Sugiyama M, Inagaki H, Edahiro A, Okamura T, Ura C, Miyamae F, Motokawa K, Awata S. Childhood socioeconomic disadvantage as a determinant of late-life physical function in older Japanese people. *Archives of Gerontology & Geriatrics*. (in press)

[学会発表](計22件)

- 1. <u>村山洋史(シンポジスト).ソーシャルキャピタルの多面性:常に地域に</u>恩恵をもたらし得るのか?第57回日本老年社会科学会大会,2015年6月13日.
- 2. <u>Murayama H</u>, Liang J, Bennett JM, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Akiyama H, Shinkai S. Do Health Behaviors Affect the Trajectory of Body Mass Index Over Time? A 19-year Longitudinal Study of Older Japanese. The 68th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Orlando, FL, USA, 2015.11.17-22.
- 3. 村山洋史、谷口優、天野秀紀、西真理子、清野諭、横山友里、藤原佳典、新開省二. 体力指標が認知機能の軌跡に及ぼす影響:草津コホート研究. 第 26 回日本疫学会学術総会、米子、2016. 1.21-23.
- 4. <u>Murayama H.</u> Socioeconomic status and weight change: comparison between Japan and Finland. The 8th Annual Meeting of International Society of Social Capital Research, Sapporo, Japan, 2016.5.30-31.
- 5. <u>村山洋史</u>, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 岡村毅, 本川佳子, 粟田主一. 地域レベルのソーシャルキャピタルは認知症への不安感と関連するか? 都市部在住高齢者での検討. 第 17 回日本認知症ケア学会大会, 神戸 2016.6.4-5.
- 6. <u>Murayama H</u>, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H. Albumin and hemoglobin affect the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese: Results from a 13-year longitudinal study. The 2016 Epidemiological Congress of the Americas, Miami, FL, USA, 2016.6.21-24.
- 7. <u>Murayama H</u>, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Akiyama H, Shinkai S: Age and socioeconomic variaions in the pattern of long-term functional decline among older Japanese. The 69th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), New Orleans, LA, USA, 2016. 11.16-20.
- 8. 村山洋史, 西真理子, 野藤悠, 谷口優, 横山友里, 清野諭, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二. 高齢期における近隣凝集性と抑うつの縦断的関連: 鳩山コホート研究. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017. 1.25-27.
- 9. <u>Murayama H.</u> Socioeconomic status and weight change in old age: comparison between Japan and Finland. The Pre-meeting of the 9th Annual Meeting of International Society of Social Capital Research, Turku, Finland, 2017.6.6-7.
- 10. <u>Murayama H.</u> Neighbourhood bonding and bridging social capital and self-rated health in urban area of Tokyo. The 9th Annual Meeting of International Society of Social Capital Research, Stockholm, Sweden, 2017.6.8-9.
- 11. <u>村山洋史</u>. 高齢期における体格指数の軌跡と死亡率との関連(シンポジウム). 第 22 回日本老年看護学会学術集会,名古屋 2017.6.14-16.
- 12. <u>Murayama H</u>, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Okamura T, Awata S.

- Are neighborhoods associated with the likelihood of dementia? A study in the Tokyo metropolotan area. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, CA, USA, 2017.7.23-27.
- 13. <u>Murayama H, Liang J, Bennett JM, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Trajectories of body mass index and their association with mortality among older Japanese. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, CA, USA, 2017.7.23-27.</u>
- 14. <u>Murayama H</u>, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Changes in health behaviors and the trajectory of body mass index among older Japanese: A 19-year longitudinal study. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, Saitama, 2017.8.19-22.
- 15. 村山洋史, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, 小林江里香, 深谷太郎, 新開省二. 社会経済状態と高齢期の生活機能の軌跡パターン. 第 28 回日本疫学会学術総会, 福島, 2018.2.1-3.
- 16. 村山洋史. 生活機能低下の軌跡パターンと社会経済状況. 日本老年社会科学会第60回 大会, 東京, 2018.6.8-10
- 17. <u>村山洋史(シンポジスト・座長)</u>. ソーシャルキャピタルと認知症関連アウトカム. 第8回日本認知症予防学会学術集会, 東京, 2018.9.22-24.
- 18. <u>村山洋史</u>(シンポジスト). 高齢期における健康の社会的決定要因にどう挑むか:社会疫学の立場から. 第 13 回日本応用老年学会大会,東京,2018.10.20-21.
- 19. <u>Murayama H</u>, Shobugawa Y, Fujiwara T, Inoue S. Social appearance (*sekentei*) and cognitive decline among community-dwelling older adults in rural Japan. The 20th Congress of the International Association of Rural Health and Medicine, Tokyo, 2018.10.10-12.
- 20. <u>村山洋史</u>, 福田吉治. 職場のソーシャルキャピタルとバーンアウト: 地域包括支援センター職員へのパネル調査. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 福島, 2018.10.24-26.
- 21. <u>Murayama H</u>, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Okamura T, Awata S. Socioeconomic disadvantage in early life precicts poor physical performance in late life among older Jamanese. The 70th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Boston, MA, USA, 2018.11.14-18.
- 22. <u>Murayama H</u>, Kobayashi E, Fukaya T, Ishizaki T, Liang J, Shinkai S. National prevalence of frailty in older Japanese population: From a representative national longitudinal survey. The 70th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Boston, MA, USA, 2018.11.14-18.

[図書](計3件)

- 1. <u>村山洋史</u>, 野中久美子, 箕浦明, 南潮, 池内朋子, 藤原佳典. 労働市場・雇用政策と健康 (pp. 189-259). 社会疫学 (高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己, 監訳). 東京, 大修館書店, 2017.
- 2. <u>村山洋史</u>, 高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己. なぜいま社会疫学なのか(pp. 337-351). 社会疫学(高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己, 監訳). 東京, 大修館書店, 2017.
- 3. <u>村山洋史</u>. 「つながり」と健康格差:なぜ夫と別れても妻は変わらず健康なのか. 東京, ポプラ社, 2018.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称: 発明者: 種類: 種号: 番 番 類 の 外の別:

○取得状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類:

番号: 取得年: 国内外の別:
〔その他〕 ホームページ等
6 . 研究組織
(1)研究分担者 研究分担者氏名:
ローマ字氏名:
所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。